

南九州で記録されたトウガタガイ科貝類 2 種： コヨウジクチキレおよびヒトスジホソクチキレ

三浦知之・三浦 渚

〒 880-0035 宮崎市下北方町

Abstract

Syrnola bacillum (Pilsbry, 1901), a pyramidellid species was collected from sandy bottoms of Ibusuki port and Kasasa-Koura, Kagoshima prefecture. The soft part of a living specimen was photographed. This species is unique in having a faint narrow color band of brown spots on the middle whole surface. Another congeneric species, *S. unilineata* (Garrett, 1873) was recorded from Iorigawa inlet, Miyazaki prefecture.

はじめに

宮崎県と鹿児島県を含む日本の沿岸や海岸の底生生物の調査し、多様性の高いトウガタガイ科ホソクチキレ属貝類を報告してきた(三浦, 2025a, b; 三浦・三浦, 2025a-c). 本稿では鹿児島県の2か所で採集されたコヨウジクチキレおよび宮崎県から得られたヒトスジホソクチキレを報告する。

材料と方法

コヨウジクチキレは、2009年に鹿児島県指宿市の港内砂地から2023年に南さつま町の海岸砂地で、ヒトスジホソクチキレは2010年に宮崎県門川町庵川東入江のアマモ場で採集した。得られた標本は生きた状態で持ち帰って、可能な限り生体の軟体部を解剖顕微鏡下で観察した。その後で70% Alcoholに保存し、超音波洗浄機を用いて附着物を除き、内肋を観察するため、一部の標本は外殻を研磨して、殻の形態を観察した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Turbonillinae Bronn, 1849

Syrnola A. Adams, 1860

コヨウジクチキレ *Syrnola bacillum* Pilsbry, 1901 (Fig. 1)

Syrnola bacillum Pilsbry, 1901, pp. 394 – 395, pl. 21, fig. 25; Higo, Callomon, & Goto, 2001, p. 127, fig. G4470.

コヨウジクチキレ 堀, 2000, p. 707, pl. 352, fig. 32 as *Tibersyrnola bacillum* (Pilsbry, 1901); 堀, 2017, p. 1108, pl. 410, fig. 7 as *Syrnola bacillum* Pilsbry, 1901.

採集記録 2009年4月12日鹿児島県指宿市指宿港内(1); 2009年4月24日同所(2); 2023年8月2日南さつま町笠沙小浦(2死殻)。

形態・分布・生態 2009年4月24日に指宿港内から得られた個体が最大で殻高9.1 mm, 殻径2.2 mmであった(Fig. 1A)。この標本では、胎殻が110°異旋していた(Figs. 1C, D)。後生殻は最大11層まで確認できる。縫合部は明瞭にくびれ、肩はまるみを帯びるが、各層の側縁はほぼ直線的で膨らみが弱い。殻表に光沢はなく、やや不明瞭な螺条がみられる。殻色は薄い褐色を帯びた白色で、螺層中央部に淡い褐色の小さな丸い斑点の色帯があり、斑点の2倍程度の白い地色の間隙を空けて並んでいる(Fig. 1B)。斑点状の薄い色帯は体層や次体層ではよく確認できるが、他層や死殻では判然としないこともある。

体層は長さが殻高の30-35%で、殻全体に対する体層部分がやや大きい。次体層は幅に対する高

Miura, T. & N. Miura. 2025. Two pyramidellid mollusk species, *Syrnola bacillum* (Pilsbry, 1901) and *S. unilineata* (Garrett, 1873) recorded from Southern Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 299-302.

☑ TM: Shimokitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 28 March 2025; published online: 28 March 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-063.pdf

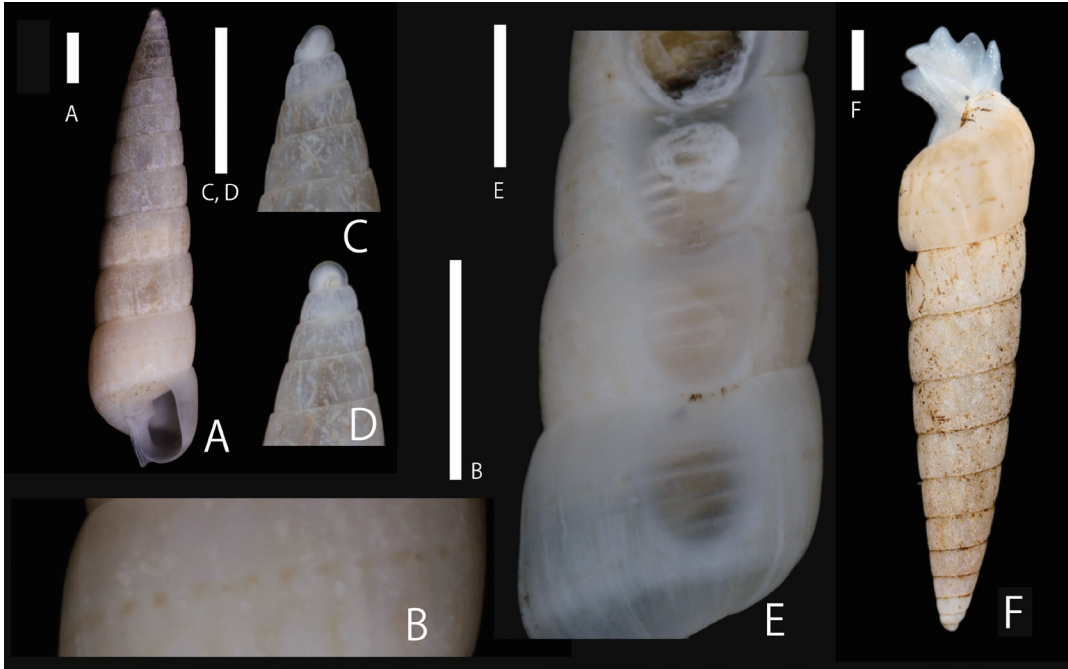


図1. コヨウジクチキレ *Syrnola bacillum* Pilsbry, 1901 : A. 2009年4月24日に鹿児島県指宿港内で採集した個体，腹面；B. 同標本次体層の拡大，破線状の色帯を示す；C & D. 同個体の殻頂部，直交する2側面；E. 同個体の研磨した外殻，背面；F. 軟体部を出した同個体，スケールは，A, B, C-D, E & Fそれぞれの1 mmを示す。

Fig. 1. *Syrnola bacillum* Pilsbry, 1901. A. Largest specimen collected from Ibusuki port, Kagoshima prefecture, on April 24, 2004, ventral view; B. Same, Penultimate whole showing the central spiral dotted color band; C & D. Enlarged protoconch of the same in two different angles; E. Abraded shell of the same to show inner spiral ribs; F. Living state of the same, dorsal view. Scales for A, B, C-D, E & F = 1 mm.

さが57–64%で細長く，次体層より上層での平均値で51–54%である。各螺層幅の増大率（前層の幅に対する次層の幅）は，急激に成長する殻頂部の数層を除外すると，1.1倍程度である。殻口は扇形で，強く明瞭な軸壁が1個確認できる（Fig. 1A）。外層内面は平滑である。体層より殻頂側の螺層内面には4–5本の内肋が確認される（Fig. 1E）。

軟体部は，白色半透明で，頭部触角は三角形で，中央部がやや高く，先細で先端部は細くなる（Fig. 1F）。触角の付け根に大きく丸い眼が1対あり，眼3個分程度離れて位置する。口吻基盤は細長く伸び，先端中央に浅い窪みがあり，左右の前縁は丸みを帯びる。腹足は匍匐状態で先端が左右に拡がり，やや丸みを帯びる。軟体部全体に白色の腺状の斑紋がある。殻が厚く，外套器官は観察していない。

本種は，WoRMS (2025) では *Tibersyrnola* Laws, 1937 の1種とされているが，この属では軸

壁が2個あることから（Laws, 1937），堀（2017）と同様に *Syrnola* A. Adams, 1860 として扱った。WoRMS(2025) には ANSP Malacology Collection Specimen (2025) へのリンクがあり，タイプ標本の写真を閲覧できる。指宿市産の標本はこのタイプ標本の形態とよく一致する。コヨウジクチキレは斑点状の色帯を螺層中央部に持つことで，本属他種から区別できると考える。

ヒトスジホソクチキレ *Syrnola unilineata* (Garrett, 1873)

(Fig. 2)

Odostomia unilineata Garrett, 1873, pp. 227–228. pl. 3, fig. 53

採集記録 2010年7月24日宮崎県門川町庵川東入り江（1）。

形態・分布・生態 庵川東入り江から得られた個体は殻高7.9 mm、殻径1.8 mmであった（Figs.

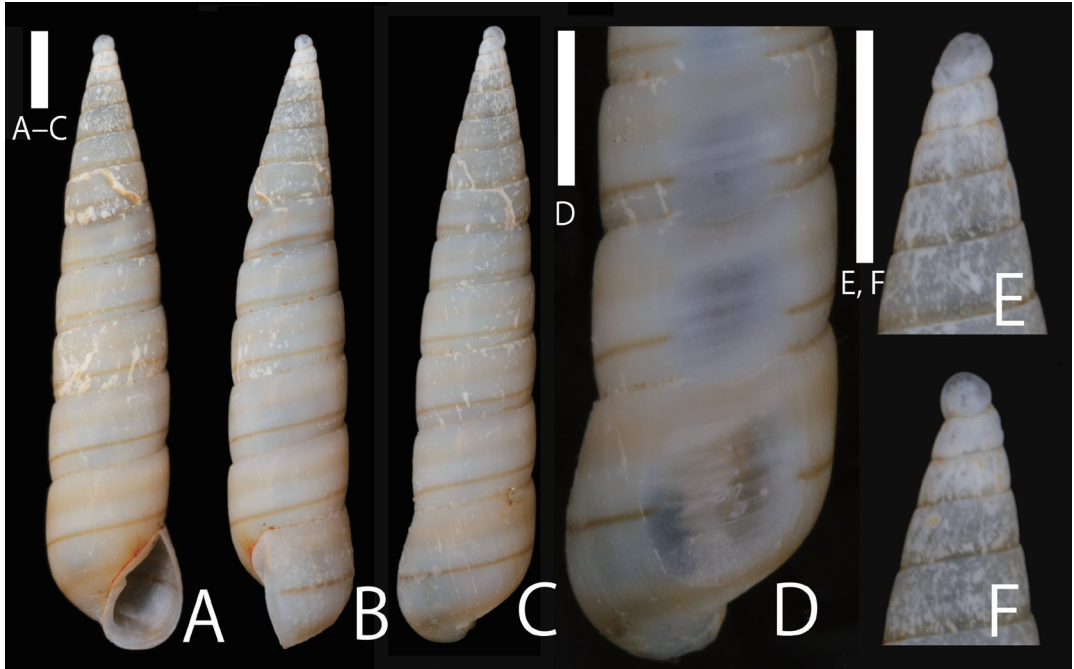


図2. ヒトスジホソクチキレ *Syrnola unilineata* (Garrett, 1873) : A–C. 2010年8月30日に門川湾庵川東入で採集された個体，腹面 (A), 側面 (B), 背面 (C); D. 同，研磨した殻，内肋を示す；E & F. 殻頂部，直交する2側面. スケールは，A–C, D および E, F の1 mm を示す.

Fig. 2. *Syrnola unilineata* (Garrett, 1873). A–C. Specimen collected from Iorigawa inlet, Kadogawa Bay, on August 30, 2010, in ventral, side or dorsal view; D. Shell abraded to show inner spiral ribs; E & F. Shell tops of the same, showing the protoconch in two different views. Scales for A–C, D, & E–F = 1 mm.

2A–C). 胎殻は2層で，第1層の端が後生層に埋まり，約110°異旋する (Figs. 2E, F). 後生殻は11層で，各層の側縁はやや膨らみ，丸みを帯びる。体層は殻高の30%，殻全体に対する体層部分がやや大きく，次体層では幅に対する高さが66%で細長い。殻表は平滑で光沢があり，縫合はV字型に凹む。各層の殻表中央に非常に薄い茶色の幅広い色帯が1本あり，前後を白い地色に挟まれる。周縁部には細い赤褐色帯が見られ，殻底部にも幅広い薄茶色の色帯がある。赤褐色帯は縫合から離れており，白色の地色が色帯の数倍の幅で縫合まで広がる。この白色の間隙が本種の特徴でもある。成長線はまれに粗い縦走痕となるが，それ以外の彫刻はない。口は扇形で，明瞭な軸壁が1個確認できる (Fig. 2A)。外唇内面には内肋の末端が確認できるが，観察は難しい。体層より殻頂側の螺層内面には体層で5本の内肋が確認され，上層で徐々にその数が少なくなる (Fig. 2D)。

本種は，キンランホソクチキレ *Syrnola serotina*

A. Adams, 1863 に酷似する (三浦・三浦, 2025a) が，殻が細長く，周縁部の赤褐色帯が縫合から離れて位置する点で異なる。内肋も体層で5本になる本種と4本までのキンランホソクチキレでは異なる。ただ，門川町から得られた標本が過成長したキンランホソクチキレである可能性もある。ここでは，形態の一致するヒトスジホソクチキレとするが，将来的には遺伝子分析までを含めて検討し直す必要があると考える。

以上の2種は，標本を宮崎県総合博物館に登録するため，検討を行ったもので，将来の再検のためにも形態観察で得られた情報を報告する。

引用文献

- Adams, A. 1860. On some new genera and species of Mollusca from Japan. *Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*. ser. 3, 6: 331–337.
- Adams, A. 1863. On the Species of Obeliscinae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*. 1862: 231–238.

- ANSP Malacology Collection Specimen, 2025. <<http://clade.ansp.org/>> (2025.3.21).
- Garrett, A. 1873. Descriptions of new species of marine shells inhabiting the South Sea islands. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*. 25: 209–231, plates 2–3.
- Higo, S., Callomon, P. & Goto, Y. 2001. Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan. Yao. Elle Scientific Publications. 208 p.
- 堀 成夫, 2000. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 702–729, pls. 350–363.
- 堀 成夫, 2017. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 1105–1123, pls. 408–422.
- Laws, C.R. 1937. A review of the Tertiary and recent neozelanic pyramidellid molluscs. No. 4 – The syrnelid genera. *Transactions of the Royal Society of New Zealand*. 67: 303–315.
- 三浦知之. 2025a. 鹿児島県奄美群島加計呂麻島で採集されたトウガタガイ科貝類 – アンパルクチキレ –. *Nature of Kagoshima*. 51 : 235–228.
- 三浦知之. 2025b. 宮崎県と鹿児島県で採集されたトウガタガイ科貝類 – チャイロクチキレ –. *Nature of Kagoshima*. 51 : 229–232.
- 三浦知之・三浦 渚. 2025a. 宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類 – キンランホソクチキレ –. *Nature of Kagoshima*. 51 : 269–272.
- 三浦知之・三浦 渚. 2025b. 宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類 – ホソクチキレ –. *Nature of Kagoshima*. 51: 273–275.
- 三浦知之・三浦 渚. 2025c. 宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類コホソクチキレについて. *Nature of Kagoshima*. 51: 277–280.
- Pilsbry, H. A. 1901. New Japanese marine, land and fresh-water Mollusca. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*. 53: 385–408, pls 19–21.
- WoRMS, 2025. <<http://www.marinespecies.org/>> (2025.3.25).